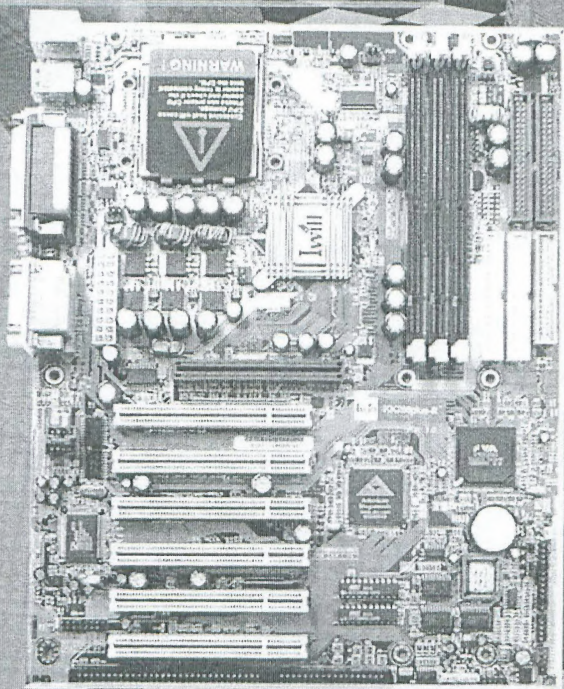


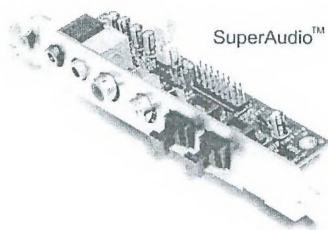
KK266Plus-R/KK266Plus 日本語簡易マニュアル



Iwill
MAKE THINGS HAPPEN
<http://www.iwill.net>

株式会社アイ威尔ジャパン

Iwill Athlon 用マザーボード Plus シリーズオプション



C-Media CMI8738 6ch-MX チップ搭載マザーボードでは、SPDIF 入出力をサポートする Super Audio コネクタをオプションとしてご利用になれます。
アイウィル商品取り扱い店舗にて好評販売中です!

索引

機能解説	P.1
KK266Plus-R Features	P.2
基板上の各パーツの配置	P.3～P.4
クイックインストール	P.5～P.6
PC 組み立てに関して	P.7
システム BIOS のセットアップ	P.9～P.12
トラブルシューティング	P.13～P.15
よくある質問	P.16～P.18
Appendix	P.19
サポート FAX	P.20

はじめに

この度は弊社 KK266Plus-R/KK266Plus マザーボードをお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。本商品 KK266Plus シリーズは大好評頂きました KK266 シリーズの後継機種になります。KK266 シリーズの先進機能に加え、Low Pass Filter 及び最新 CPU に対する設定を追加し、より高い安定性とパフォーマンスを得られるようアップデートされています。

将来発表される商品に対するいくつかの設定の中には、お客様の PC パーツに過負荷をかける設定もございますが、弊社ではこれらの設定を推奨致しません。

本マニュアルでは、商品を動作させる為の最低限の設定項目についての簡単な解説を行います。本マニュアルはあくまで簡易版ですので、本商品に対する理解を深めるため、

Copyright © 2001 Iwill Japan Corporation

この簡易マニュアルは、株式会社アイウィルジャパンの販売した KK266Plus-R/KK266Plus マザーボードにのみ添付する事を前提として作成されています。株式会社アイウィルジャパンを経由せずに日本国内で流通する商品に対して、ライセンスによる許可無しにこの出版物は一部といえども複製してはなりません。

このマニュアルの情報は使用するための情報提供の為に供給され、通知なしに変更される場合があります。株式会社アイウィルジャパンはこの本に現れるかもしれないどのようなエラー/誤り(誤植など)に対して責任を持ちません。

KK266Plus は KK266Plus-R の IDE RAID コントローラ無しバージョンになります。

機能解説

サポート CPU

AMD Athlon/Duron プロセッサ

100～133MHz (DDR200～266MHz)

※実際には DDR により設定クロックの倍のデータ転送速度を実現可能です。プロセッサの動作クロックは定格で 100/133MHz となります。

弊社の動作保証範囲は 100/133MHz (DDR 200/266MHz) 迄となります。

注)SocketA タイプの CPU は通常の方法では倍率変更を行うことが出来ません

CPU Voltage の変更可能

CPU Core 電圧を BIOS から変更可能です。

Vcore Default 「自動検出」もしくは BIOS から設定変更可能。

Vio Default Auto(自動検出)/+5%/+10%選択可能

CPU の動作保証範囲を大幅に超えた設定を行うと L2 キャッシュの破損、M/B 自体が発煙/発火する可能性もあります。Default 以外の上記設定はあくまでも動作保証範囲外の行為になりますので、ご注意ください。

AGP 4x モードサポート

最新の AGP カードの転送モード、AGP 4xモードをサポートしています。巨大なテクスチャを使用する際や、CAD/CAM での製図時に何層もレイヤーを生成する際に威力を発揮します。

Ultra-DMA/100 対応

ATA/100 IDE HDD を ATA/100 モードで動作させる事が出来ます。これにより一部の HDD は ATA/33 モード時に比べかなり快適にご使用になれます。

オンボード IDE RAID 機能 (KK266Plus-R のみ)

American Megatrends 社、MG80649 チップを搭載し、オンボード IDE RAID 機能を実現しています。IDE RAID に関する説明に関しては、付属の MG80649 簡易日本語マニュアルをご参照ください。

ハードウェア 5.1 チャンネル PCI Sound 機能内蔵

C-Media 社 CM18738 6ch MX 5.1 チャンネル PCI サウンドコントローラを搭載し、DVD ビデオ再生などで臨場感溢れる音楽再生をお楽しみ頂けます。S/PDIF サポートタイプでは光ケーブルによるデジタルデータインターフェイスをサポートし、MD や S/PDIF サポートのスピーカーにも対応可能です。

Micro Stepping 機能

BIOS 設定項目内の "Iwill Smart Setting" から FSB のクロックを 1MHz 単位で変更する事が出来ます。但しこの機能はあくまで「設定が可能である」だけであり、弊社の動作保証範囲外の設定項目になります。

KK266Plus-R Features

プロセッサ AMD Athlon/Duron プロセッサ(DDR 200/266MHz フロントサイド システムバス)

PGA カートリッジ 462Pin コネクタタイプ対応

AMD Duron 600~800MHz

AMD Athlon 750MHz~1.2GHz(及び将来発表される高クロック商品)

チップ: VIA Technologies 社 KT133A チップセット

フォームファクタ ATX フォームファクタ

拡張スロット等

AGP x1 (4xモードサポート)

PCI x6 (2.2 規格対応 バスマスタ)

ISA x1

IDE コネクタ x2(Ultra-DMA/100 対応)

IDE RAID 対応コネクタ x2(ATA100 及び RAID Level 0,1,0+1 対応) KK266Plus-R のみ

フロッピーディスクドライブ コネクタ x1

DIMM ソケット x3 最大 1.5GB 搭載可能

(256Mbit DRAM モジュール使用時)

同期動作サポート(ECC はサポートしていません)

JEDEC MO-161規格準拠金メッキコネクタ DIMM モジュール対応

3.3V Unbuffered SDRAM

オンボード FAN コネクタ(3Pin) x3

温度センサ端子 x2(System/CPU)

IrDA(赤外線入出力用) コネクタ x1

WOL(Wake On LAN) コネクタ x1

WOM(Wake On Modem)コネクタ x1

PS/2 コネクタ x2(キーボード/マウス)

USB コネクタ x2 (オプションコネクタ使用により 更に 2 個追加可能)

シリアル ポート x1(16550 FIFO オプションコネクタ x1)

パラレル ポート x1(SPP/EPP/ECP/ECP+EPP 選択可能)

付属品

マザーボード本体 x1

Iwill Power Installer CD-ROM x1

Ultra-DMA/66,100 対応 80Pin IDE ケーブル x2 (KK266 はx1)

FDD ケーブル x1

英文マニュアル x1

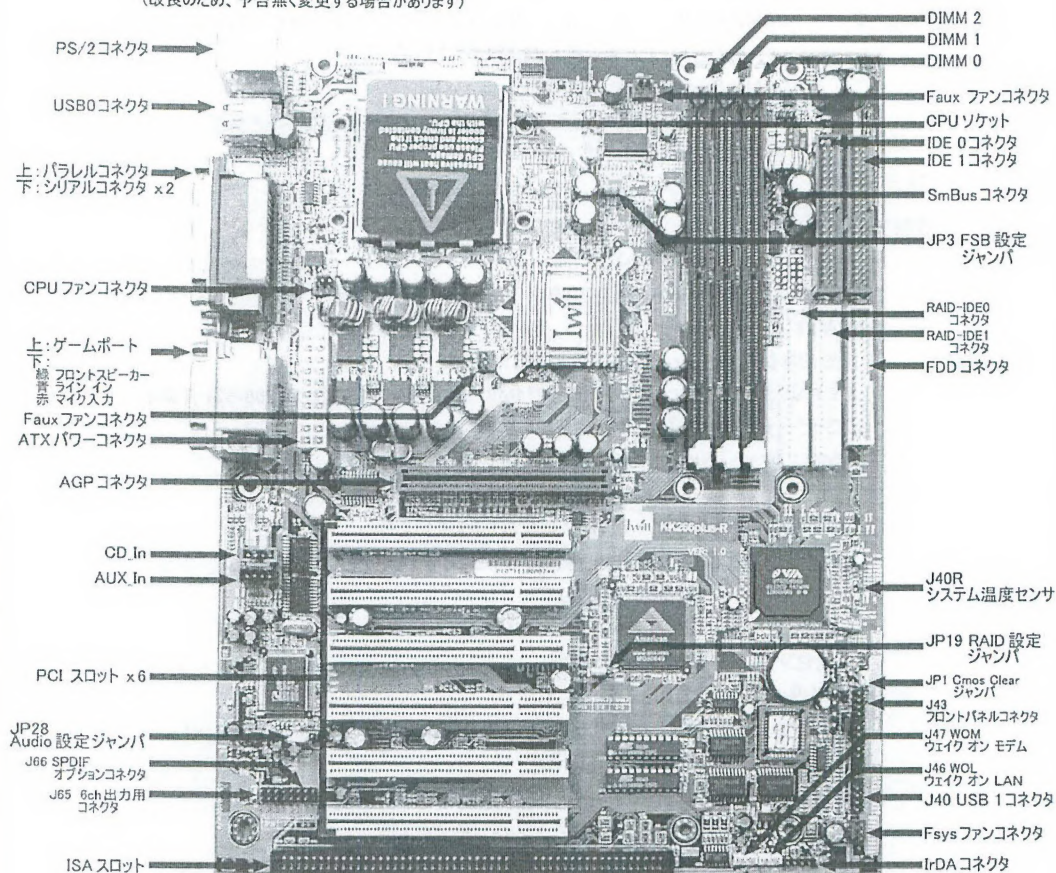
日本語簡易マニュアル(マザーボード本体/RAI 解説(KK266Plus-R のみ) 各x1)

6ch 出力用サブインターフェース x1 接続用フラットケーブル x1

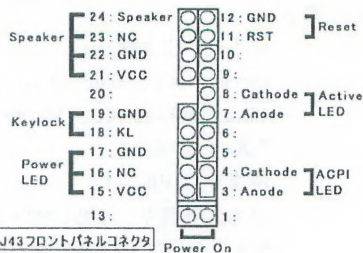
基板上的の各パーツの配置

KK266Plus-R の基板上に配置された各コネクタ/ジャンパなどの位置

(改良のため、予告無く変更する場合があります)



ピンの方にご注意下さい。



J43 フロントパネルコネクタ

基板上的位置	基板上的表記	説明
J1	CPU	SocketA 対応プロセッサソケット
J3-J5	DM0-2	168 ピン DIMM ソケット
J12-J17	PCI 1-6	PCI 拡張スロット
J11	AGP	AGP コネクタ
J28	IDE0	プライマリ IDE コネクタ
J29	IDE1	セカンダリ IDE コネクタ
J65	RAID IDE0	IDE RAID 対応 IDE コネクタ
J66	RAID IDE1	IDE RAID 対応 IDE コネクタ
J30	FDC	フロッピーディスク ドライブ コネクタ
J31	S1	シリアルコネクタ 1
J32	S2	シリアルコネクタ 2
J33	LPT	パラレルコネクタ
J34	USB	USB コネクタ チャンネル 0
J34A	USB1	USB コネクタ チャンネル 1
J35	PS2_SB	PS/2 マウス/キーボードコネクタ
J37	PWR	スタンダード ATX パワーコネクタ
J39	Fcpu	プロセッサファンコネクタ
J39A	Tcpu	CPU 温度センサ
J40	Faux	ケースファンコネクタ
J40A	Tsys	システム温度センサ
J41	Fsys	システムファンコネクタ
J43	フロントパネル I/O コネクタ	
	PWR ON(Pin 1 13)	リモートパワー オン/オフ コネクタ
	ACPI LED(Pin 3-4)	ACPI LED コネクタ
	ALED(Pin 7-8)	IDE LED コネクタ
	RST(Pin 11-12)	リセットスイッチコネクタ
	PLED(Pin 15-17)	パワーLED コネクタ
	KL(Pin 18-19)	キーロックスイッチ コネクタ
	SPKR(Pin 21-24)	スピーカー コネクタ
J45	IR	赤外線入出力コネクタ
J46	WOL	Wake on LAN コネクタ
J47	WOM	Wake On Modem コネクタ
J48	SmBus	SM BUS コネクタ
J53	Aux_In	AUX ケーブルコネクタ
J54	CD In	CD-ROM ケーブルコネクタ
J65		6 チャンネル出力カード接続用コネクタ
J66	SPDIF	SPDIF オプション接続用コネクタ
JP1	Cmos	Cmos クリアジャンパ(普段は変更しないで下さい)
JP2	JP2	オンボード IDE RAID On/Off ジャンパ
JP3	FSB	FSB 設定ジャンパ (100/133)
JP10	VIO	VIO 設定ジャンパ
JP16		BIOS Flash Protect ジャンパ
JP19		IDE RAID Enable/Disable ジャンパ
JP20	Audio	Audio Enable/Disable ジャンパ

クイックインストール

ここでは組み立てに最低限必要なマザーボードと各部品の接続について、簡単に説明致します。商品のコネクタ位置などに関しては、P.3の図をご参照下さい。また、商品の詳細な設定方法をより深く理解する為に、添付の英文マニュアルもぜひご参照下さい。

1. CPU の取り付け

CPU コネクタの横にあるレバーを持ち上げ、AMD Athlon/Duron プロセッサを差し込みます。ピンの配列を良くご確認の上、取り付けてください。正しく差し込まれたことを確認してから、レバーを元の位置に戻して確実にレバーをロックします。取り付け終了後、FSB 設定ジャンパで FSB を設定します。

JP3	FSB100	1-2 ショート
	FSB133	2-3 ショート

2. メモリの取り付け

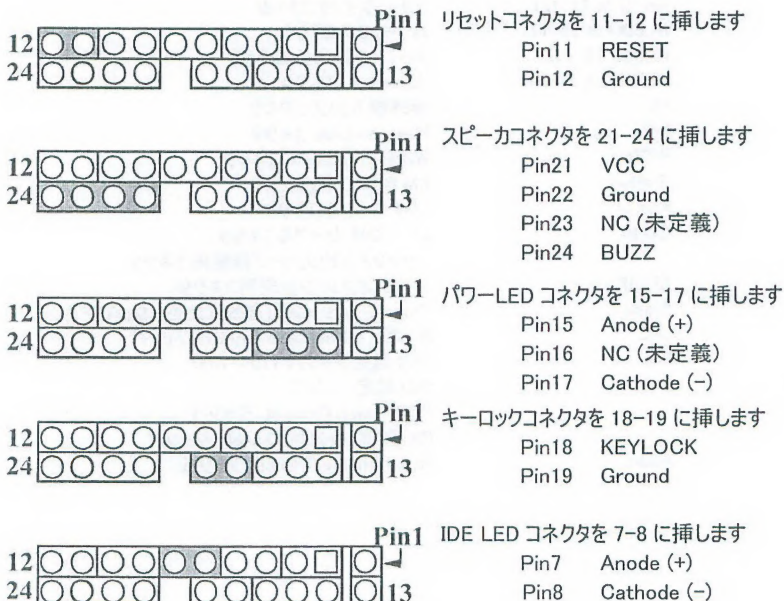
システム起動には、最低 1 枚のメモリモジュールをインストールする必要があります。メモリモジュールは DIMM 番から順に挿しこむようにして下さい。メモリモジュールを差し込む際には、切り欠き部分の向きを確認し、マザーボードと平行に奥まで、白いプラスチックパーツでのメモリモジュールが完全にロックされるまで挿しこんで下さい。(P.7 参照)

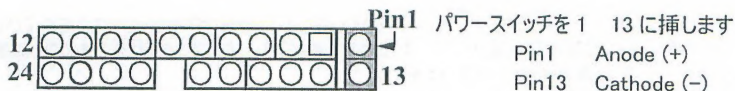
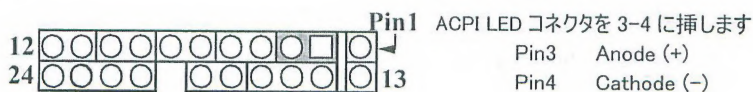
メモリの取り付けが終了してから、マザーボードをケース内部に取り付けます

3. 内蔵機器の接続

フロッピーディスクドライブ、IDE デバイス等の内蔵機器とマザーボード上の所定のコネクタをケーブルで接続します。これらのフラットケーブルには 1 ピン方向に赤いラインが入っておりますので、ケーブルの向きに注意してゆっくり挿しこんでください。

4. J43 の各部ケーブルを接続する





注)LED 関係のコネクタは極性を持っていますので、接続しても LED が点灯しないときはコネクタを逆に挿している可能性があります。また、ケースによっては特定のコネクタが付いていない物もありますが、全てのコネクタを正しく接続しないと起動しないと言う事はありません。動作検証を行うために、最低リセットスイッチとスピーカーだけは取りつける様にして下さい。

5.キーボード、マウスを接続する

PS/2 キーボード/マウスをそれぞれ J35 のキーボード/マウスコネクタに接続します。2 つのコネクタはそれぞれ紫色をキーボード、緑色をマウスとしてご使用ください。

6.VGA と VGA ケーブルを接続する

VGA カードを適宜スロットに挿しこみ、VGA のコネクタにモニターケーブルを接続してください。

7.IDE デバイスを接続する

KK266Plus-R は合計 4 つの IDE コントローラコネクタを持っています。このうち KT133A が管理する IDE コネクタは IDE 0/1 となります。また IDE RAID コントローラである MG80649 がコントロールする IDE コネクタは RAID IDE 0/1 となります。用途に応じて使い分けるようにして下さい。(可能な限り IDE0/1 には ATAPI デバイスや Ultra-DMA 非対応 HDD を、RAID IDE 0/1 には HDD 等を取り付けることを推奨致します) EXT IDE0 及び 1 に HDD 等を接続する際には、PCI の 1 番に何も PCI デバイスを差し込まないようにして下さい。

8.オンボードサウンドを設定する

オンボードサウンド機能を設定します。オンボードのサウンド機能を使用する際には JP20 を 1-2 のショートの状態に、オンボードのサウンドを使用しない際は 2-3 をショートして下さい。また、オンボードのサウンドを使用する際は、CD-ROM と J54 をオーディオコネクタで接続して下さい。このケーブルを接続しないとオーディオ CD が再生できない場合があります。

9.電源を投入する

これで組み立ては完了です。最後にもう一度各デバイスの接続を確認し、ケース外部に取り付ける物やディスプレイをつないで電源を投入して下さい。次に BIOS の設定を行います。

PC組み立てに関して

PC組み立てに際しては、以下の点にご注意下さい。

静電気

特に冬場のPC組み立て時に良く発生するのですが、組み立て時にナイロン製の服やセーターなどを着ていると、何気なく触ったPCパーツに静電気が走り、パーツを破壊する事が有ります。(アンペアは低いものの、静電気の Voltage は非常に高く、容易にパーツを破壊します)

PC 組み立ての際は、出来るだけセーターなどを脱ぎ、PC ケースや水道管をしっかりと握って静電気を逃がし、帯電していない事を確認した上で組み立てを行って下さい。

コネクタなどの逆差し/差し間違い

フロッピーディスク等を繋げる際、非常に間違えやすいミスが「ケーブルの逆差し」です。フロッピーディスクドライブのケーブルコネクタ端子には逆差し防止用のカバーが付いていない事が多い為、ケーブルを誤って逆に挿し込む事が多いようです。また、一列ずれて差し込んでしまうと言う事例も多いようです。BIOS の 初期画面で Floppy Disk Fail(40) 等のメッセージが表示される場合、まずコネクタを確認して下さい。

また、フロッピーディスクケーブルは、末端と末端をそれぞれ M/B 側のコネクタ、FDD 側のコネクタに接続するようにして下さい。良く見ると、FD ケーブルには一部ねじれている部分がありますが、このねじれを挟まない様に FDD とマザーボードのコネクタにケーブルを接続すると、FDD が B Drive として認識され、やはり Floppy Disk Fail(40)のメッセージが表示されてしまいます。場合によっては Drive 自体が壊れてしまうので、注意して取り付けて下さい。

マニュアルを良くお読み下さい

最近、マニュアルに記載してある注意点や、良くある質問などと全く同じお問い合わせを受ける事が度々あります。最低限、この日本語マニュアルは全ページ目を通すようにして下さい。障害が起こってからでも構いませんので一度マニュアルには目を通すようにして下さい。

CPU 取り付けの際の諸注意

Athlon/Duron CPU に限らず、最新の高クロック版 CPU の CPU クーリングファンは、密着度を高める為、非常に強い力で CPU ソケットに取付金具をはめ込む必要があります。この際、マザーボードの基板表面に傷を付けてしまい、起動不能となるケースが増えてまいりました。CPU は出来る限りケースに取り付ける前に固定を行い、固定する際には基板表面を保護する為に CPU ソケット上部に添付されている「Warning」シールを右の写真のように差し込み、基板表面に傷を付けないように留意してください。



弊社では、お客様が商品を物理的に破損させてしまった場合、不具合の修理、改修、その他の保証をお断りする場合があります。予めご了承ください。

システム BIOS のセットアップ

はじめに…

ここでは KK266Plus-R に採用されている Award BIOS の設定項目に関する取り扱い上の注意点、設定方法をお知らせ致します。

なお、BIOS 設定項目中によく分からない項目等があった場合、設定を変更しない事をお勧め致します。BIOS はマザーボードを動かす上で最も重要なプログラムになりますので、適切ではない設定などを行った場合、全く起動しなくなる場合もあります。

1.1 イントロダクション

このマザーボードでは、システムバイオスとして Phoenix 社 Award BIOS を採用しています。この BIOS はマザーボード上のフラッシュメモリ内に記録されており、フロッピーなどの記憶媒体とフラッシュツール、イメージファイル等を用い簡単にアップグレードする事が可能です。

セットアッププログラムは現在のコンピュータの設定状況を参照し、変更するために使用されます。この設定はバッテリー(ボタン型電池)によって電源を切った後も全ての設定を保存し続けます。バッテリーの寿命は 4~5 年程度になります。

1.2 BIOS のアップグレード方法

BIOS はフロッピーディスクと Award フラッシュユーティリティ(AWDFLASH.EXE)を使用して簡単にアップグレードする事が出来ます。BIOS のイメージファイルとフラッシュユーティリティは弊社ホームページ(<http://support.iwill.net>)からダウンロードできます。

注)BIOS アップデートは、非常に簡単な手順で行えますが、下記 1.3 で示す様に作業中に何らかのエラーが発生した場合、BIOS データを容易に破壊してしまう危険性があります。また、作業には多少の DOS コマンドの知識を必要とします。これらの知識に自信が持てない場合、BIOS のアップデートは行うべきではありません。

システムが完全に動作していない際には BIOS アップデートを行わないで下さい

1.3 BIOS データ復旧方法

BIOS 書き換えの際に何らかの操作ミスを行った/予期せぬ問題が発生した場合、状況によっては BIOS データが破壊される事もあります。(例えば、BIOS 書き換え時に規定外の電圧が BIOS を内蔵している ROM にかかる、データが壊れる事があります)

その場合、BIOS をディスク内のデータから復旧する事が出来る場合もあります。起動可能なフロッピーディスクに復旧用ファイルをコピーし、BIOS リカバリディスクを作成してください。(復旧用ファイルは Iwill から配布されています)

補記:リカバリ作業中は、ディスプレイに全く画像が現れません。

1.4 BIOS セットアップ画面への移行

パワーオンセルフテスト(POST:Power On Self Test)終了後、メモリカウントが始まってから、IDE ハードディスクを検出する場面までの間にキーを押す事により、BIOS セットアッププログラムを起動する事が出来ます。

2.1 BIOS セットアッププログラムを利用する

メニュー画面でのファンクションキーの働きは、以下の様になっています。

<Up>	前の選択項目へ移動する
<Down>	次の選択項目に移動する
<Left>	左側の選択項目に移動する
<Right>	右側の選択項目に移動する
<Esc>	変更項目を保存せずにセットアッププログラムを終了する／現在のメニューページからメインメニューページに移動する
<PgUp> もしくは <+>	選択項目の“値”を次のものに変える
<PgDn> もしくは <->	選択項目の“値”を前のものに戻す
<F1>	その項目内でのヘルプを表示する
(Shift を押しながら)<F2>	スクリーンの色を変更する F2 を押すと次の配色に変わり、(Shift を押しながら) <F2> を押すと直前の配色に変わります
F10 キー	現在の設定を保存し、セットアッププログラムを終了します
Enter キー	選択したメニューページに移動します／更に細かい設定項目に移動します。(▶マークのある項目のみ)

補記: BIOS のデフォルト設定はシステム設計者によって大変注意深くチューニングされており、最大のパフォーマンスと最良の互換性を保つ様に設定されています。これらの設定を十分な理解無しに変更する事は大変危険です。

その設定項目が何を意味するか、完全にご理解頂いていない場合は、設定項目を変更しないで下さい

2.2 BIOS を工場出荷時の設定に戻す場合

BIOS 変更後、機器の動作が不安定もしくは正常に動作しなくなった場合は、BIOS を元のバージョンに戻し、工場出荷時のデフォルトセッティングに戻す様にしてください。

確実に工場出荷時の状態に戻すためには RTC CMOS データを消去(Cmos Clear)が一番確実です。電源を完全に落とし(可能なら、マザーボード上の ATX パワーコネクタをはずして行ってください)、JP1 のジャンパーを 1-2 状態から 2-3 状態にショートして 10 秒から 20 秒放置してください。その後、ジャンパー位置を元の 1-2 に戻し、再度システムを起動してください。これで完全に工場出荷時の設定を再現する事が出来ます。

2.3 最低限システムを安全に運用する為には、下記項目を正しく設定する必要があります。

Standard CMOS Features

“Date” “Time”

Advanced BIOS Features

“OS Select for DRAM >64MB”

Advanced Chipset Features

“SDRAM Cycle Length” “Bank Interleave” “DRAM Clock” “AGP 4x Mode” “AGP Fast Write”

Integrated Peripherals

“Onchip USB Port” “Init Display First” “AC97 Audio”

Iwill Smart Setting

“CPU Clock” “CPU Multiplier”

次のページから最低限の設定について説明を致します。

STANDARD CMOS FEATURES 「日付(Date)/時間(Time)」

カーソルを移動し、それぞれ正しい日付/時刻に設定してください。

ADVANCED BIOS FEATURES 「OS Select for DRAM >64MB」

IBM 社 OS/2 を OS としてご使用になる方のみ、設定が必要になります。システムメモリを 64MB 以上ご使用になる場合のみ、「OS/2」を選択してください。

選択項目 OS/2 / Non-OS/2(デフォルト)

ADVANCED CHIPSET FEATURES 「SDRAM Cycle Length」

システムメモリの CAS レイテンシに合わせて設定してください。CAS レイテンシ 2 のメモリモジュールと 3 のメモリモジュールを同時にご使用頂く場合、この項目は“3”に設定してください。

選択項目 2 CAS レイテンシを 2 に設定します
 3 CAS レイテンシを 3 に設定します(デフォルト)

ADVANCED CHIPSET FEATURES 「Bank Interleave」

Bank Interleave 機能の設定を行います。通常は Default のままご利用ください。

設定項目	By SPD	自動設定(デフォルト)
	2Bank	2Bank Interleaveを行います
	4Bank	4Bank Interleaveを行います

ADVANCED CHIPSET FEATURES 「DRAM Clock」

DRAM の同期/非同期設定を行います。デフォルトのまま変更しない事をお勧め致します。

設定項目	Host Clk	FSB と同期します(デフォルト)
	HCLK+33MHz	DRAM を FSB+33MHz で動作させます

INTEGRATED PHERIPHERALS「OnChip USB Port 0 / 1」

基板上に実装された USB コネクタに IRQ を割り当てるか否かを設定します。

選択項目	Enable	USB を有効にします
	Disable(デフォルト)	USB を無効にします

ADVANCED CHIPSET FEATURES 「AGP-4x Mode」

AGP の 4X モードをサポートするか否かを設定します。Disable の場合は 2X 1X から、Enable の場合は 4X 2X 1X から自動的に最適な転送速度を設定します。

選択項目 Enable(デフォルト)
 Disable

INTEGRATED PHERIPHERALS 「Init Display First」

PCI と AGP のどちらをプライマリディスプレイにするかを設置します。

選択項目 AGP(デフォルト)/PCI

IWILL SMART SETTING 「Iwill MicroStepping」

注意！

Over Clock 等の各パーツの規定外動作は弊社の保証対象外の設定になります。システム設定に関する深い理解無しに各種設定項目を変更しないで下さい。

マザーボードはシステム内の各種デバイスとデータを交換する為の大変重要なパーツです。下記に示す設定項目はデータ転送に密接な関りを持っています。この設定項目を十分な考え無しに変更する事は各種のデータ転送に深刻な影響を及し、最悪の場合データを復旧不能の状態にし、各種の障害を各パーツに残す事でしょう。ご自身で責任を持ってない設定は決して行わないで下さい。

IWILL SMART SETTING 「CPU Vcore」

CPU のコア部分に供給する電圧を設定します。通常は設定の必要なく正しい電圧が加圧されますので、この項目の設定は不要です。

IWILL SMART SETTING 「CPU Clock」

CPU の FSB クロックを設定します。DDR200 対応 CPU のクロックは 100MHz DDR266 対応 CPU のクロックは 133MHz です。また、133MHz 以上のクロックは DDR266 対応 CPU を取り付けた際に表示されます。(本マニュアル 5 ページ参照)

IWILL SMART SETTING 「CPU Multiplier」

CPU の動作倍率を設定します。市販されている CPU では通常は倍率変更できません。

IWILL SMART SETTING 「BIOS-ROM Flash Protect」

本商品は、不用意に BIOS ROM を書き換えない様に、BIOS 書き換えをソフトウェア的に不可能にした状態で販売しております。もし、何らかの理由により BIOS をどうしても書き換えなくてはならない場合は、この設定項目を“Flashable(書き換え可能)”に設定してから書き換えを行って下さい。

設定項目	Non-Flash(デフォルト)
	Flashable

トラブルシューティング

一部 FAQ の内容と重複しますが、PC 組み立て時のエラーの切り分け方法などを記載致します。

1.画像が全く表示されない

近年非常に増えてきているお問い合わせです。まず、PC ケースに付属している Beep 用スピーカーがマザーボードの Speaker 端子(J43 21-24)に接続されているか否かをご確認ください。

次に PC を最低限のパーツをケースに組み込み、電源を投入して様子を見ます。

PC の起動する最低構成

- ・VGA
- ・CPU
- ・Memory
- ・マザーボード
- ・FDD
- ・PS/2 キーボード

この段階で全く画像が出力されないのであれば、PC ケースのスピーカーから出る音の「パターン」を聞き分けてください。Award BIOS では BIOS 起動後の POST(Power On Self Test)で異常が確認された場合、このスピーカーから出る「Beep パターン*」で障害内容を通知するようになっています。P.20 のリストを参照して障害内容を判断してください。また、判断がつかない場合はサポートに問い合わせの際にこの Beep 音の「パターン」をご連絡いただければ、迅速に回答を行う事が出来ます。

どうしても画面が表示されない場合、VGA (AGP) の挿し込みが不十分である事が原因となっている場合が多いようです。VGA はきちんと並行に奥まで差し込まれているか再度ご確認ください。

(*P.20 Appendix A 「Award Beep Cord List」参照)

もしも最低構成で PC が起動するようであれば、一つずつデバイスを追加していきます。

2.特定のパーツを取り付けると BIOS 上でエラーメッセージが表示される

BIOS の初期画面で表示される事の多いメッセージと対応方法は以下の通り

「CMOS checksum error - Defaults loaded」

訳文：Cmos 内容の検査合計値が異なる為、工場出荷時の BIOS 設定を Load します。

対応：多くの場合、ただ単にデフォルトの設定が Load されたと言うメッセージに過ぎないので、BIOS を適宜設定し、情報を再度保存 (Save) する事でメッセージは表示されなくなります。

「Floppy disk(s) fail(40)」

訳文：フロッピーディスクに異常あり

対応：FDD コントローラか、FDD 自体をイニシャライズ(初期化)出来なかった際に表示されるメッセージです。まず、FDD ケーブルの接続をご確認ください。このメッセージが表示されている時に FDD のアクセスランプが点灯したままになっている場合、FDD のケーブルが逆に差し込まれている事が多いようです。

「Keyboard error or no keyboard present」

訳文：キーボードエラー もしくはキーボードが接続されていません

対応：キーボードの接続位置と、差し込みを再度ご確認ください。また、弊社の商品ではマザーボードの BIOS はデフォルト(初期設定)で USB コントローラを Disable (使用不可)に設定しています。システムを”最初に”起動する際には必ず PS/2 キーボードを取り付けるようにして下さい。最初にブートした際に USB キーボードを取り付けている場合はこのエラーメッセージが表示されます。

3.OS が起動できない

3.1.FDD が読み込めない。

新たに取り付け付けたデバイスの消費するリソース(設定値)がFDコントローラのリソースと重複した場合にこの症例が発生する事があります。デバイスのメーカーに問い合わせ、異なるリソースを使用するように変更された BIOS 等が存在するかをご確認ください。

また、OS の起動に不可欠なファイルがフロッピーから読み込めない場合も同様に起動できない場合があります。他のシステムでフロッピーに含まれているファイルに欠損がないか等をご確認ください。

3.2.オンボード IDE に接続した HDD から起動できない。

ATA66 以降の HDD と IDE コントローラ搭載マザーボードでよく発生する事例です。HDD 側の Master/Slave 設定ジャンパによる設定と、80 芯ケーブルの接続位置による Master/Slave の設定に矛盾が生じている場合、マザーボードの BIOS では HDD が検出されるものの、OS 等が起動できない。OS 上から HDD が認識できないと言う状況が発生する可能性があります。ATA66/100 対応コネクタに 80 芯ケーブルを使用して ATA66/100 対応 HDD を接続する場合、HDD の Master/Slave 設定ジャンパの設定は出来る限り Cable Select(略号 CS)設定にするか、矛盾が生じないように何度も確認を行った上で接続してください。弊社商品に付属する 80 芯ケーブルの場合、青いコネクタはマザーボード(もしくは ATA インターフェース)側のコネクタに接続。その反対側にある黒いコネクタは Master デバイス用コネクタ。真中の灰色のコネクタは Slave デバイス用コネクタになります。

また、KK266PLUS-R に搭載される AMI ATA100 RAID コントローラは HDD を単独ドライブとして使用する事が出来ません。もしもオンボード IDE コネクタに HDD を接続し、OS を Install した後に HDD を RAID コントローラ側に接続した場合、OS は起動しません。

3.3.SCSI や追加 IDE コントローラカードに接続した HDD から起動できない。

SCSI や IDE コントローラの BIOS が表示されない場合は、これらのカードの IRQ が特定の IRQ を占有していない為に問題が発生している可能性があります。特に一般的なマザーボードでは、AGP と AGP に最も近い PCI スロットは必ず IRQ を共有するようになっていますので、この PCI スロットに BIOS を搭載したカードを差し込んだ場合、OS 起動前の段階で正常な動作を行えない可能性があります。他の PCI スロットに差し替えてご利用ください。HDD 等を接続するカードをご利用いただく場合には、AGP 側から数えて 2 番目か 3 番目の PCI スロットにカードを差し込むようにして下さい。

また、BIOS が表示されるものの起動が出来ない場合は、マザーボードの BIOS 設定項目の「Advanced BIOS Features」内にあるブートデバイス関連の設定をご確認頂き、ブートデバイスに「SCSI」が含まれるように設定してください。

4.その他のトラブル

「BIOS 書き換え時に”Insufficient Memory”と言うメッセージが表示される」

詳細な情報をお伝えするには紙数が足りませんので簡単に要約して説明いたします。
いわゆる「DOS モード」時には、どれだけ大量の Memory を搭載していても 1MB を超えるメモリ空間にアクセスする事は出来ません。この限られたメモリ空間に多数のデバイスドライバがロードされてしまった場合、BIOS 書き換えユーティリティー（非常に大きなメモリ空間を消費します）が起動できなくなってしまいます。この際に表示されるのがこのメッセージです。

BIOS 書き換えの際には必ず「システム転送のみを行ったシステムディスク」をご用意ください。また、KK266PLUS-R / KK266 では、フロッピーディスクに AWDFLASH.EXE と書き換え用のバイナリデータがコピーされていれば、マザーボードの BIOS 起動時にフロッピーを挿入し、＜ALT＞キーと＜F2＞キーを同時に押す事により、BIOS を自動で書き換える事が可能になっています。この状況では Config.sys 等で登録されたドライバがロードされません。

また、BIOS 書き換えの際には必ず VGA (AGP) 以外のカードを取り外し、HDD 等も出来るだけ取り外してください。また、BIOS 書き換え後は必ず BIOS の設定項目内の「Load BIOS Default」を実行し、BIOS を初期状態に戻してから必要な項目を再設定してください。

「初めてパソコンを組み立てるので、組み立て方も OS のインストールの仕方も全く分からない」

余りにお問い合わせが多いのでこちらで説明いたします。

まず、組み立て方が分からないのであれば、書店にて「DOS/V パソコン自作マニュアル」のようなパソコンの組み立て方に関するムック / テキストをご購入ください。（弊社サポートセンターは組み立て方のご相談には応じかねます）

また、OS のインストール方法に関しては基本的に OS のメーカーに問い合わせるべき事項です。OS のマニュアルにも基本的なインストール方法に関する記述が存在しますし、各社のウェブサイトでは OS のインストール方法にまつわる障害の回避方法や対策がまとめられています。

特にお問い合わせの多い Microsoft 社の OS に関しては Microsoft 社の日本語ページ内にある Knowledge Base (<http://search.support.microsoft.com/kb/c.asp?lng=jpn&sa=per>) が非常に有効です。

組み立ての際には各種マニュアル(本書も含まれます)を良くお読み頂き、その上でお問い合わせください。

「OS に USB Driver をインストールするとレジストリエラーが発生する」「USB 機器が使用できない」

弊社の商品ではマザーボードの BIOS はデフォルト(初期設定)で USB コントローラを Disable(使用不可)に設定しています。この状況下では USB に IRQ を割り当てないので、全く USB 機器がご利用になれません。また、この状況下で USB ドライバーを強制的にインストールした場合、レジストリエラーが発生する等の不具合が発生します。この問題はマザーボードの BIOS 設定項目である「Integrated Peripherals」内の「USB assign IRQ」(BIOS のバージョンアップによって、異なる名称になる可能性もあります)を Disable から Enable に設定して OS を再起動してください。

良くある質問

Q.Power ボタンを押してもシステムが全く起動しない。

A. 次の点をご確認下さい。

1. ケーブル類はしっかりと所定の位置に正しく挿入されているか。
2. デオカードは正常に挿しこまれているか
3. ケースに付いているパワーユニットの On/Off スイッチは On になっているか
4. ケースのスイッチ自体に問題はないか
5. 無理なオーバークロック設定をして再起動していないか

上記確認項目の内、1～3 についてはご面倒ですがもう一度確認を行ってください。どれだけ PC 組み立てに習熟していても、これらのケアレスミスは決して“0”にする事は出来ません。

マザーボード上のパワーオン端子(J42)を+ドライバ等でショートする事により(原理的にはスイッチを押す事と同義です)電源を入れる事が出来るのであれば、パワーオンスイッチの不具合(4.)が考えられます。また、無理なオーバークロック設定をした場合、電源は入るものの、BIOS が立上らなくなる事が度々あります。キーボードの“Insert”キーを押しながら電源を投入してください(BIOS のデフォルト定で起動します)

Q.BIOS の書き換えを失敗してしまった

A. 有償にて修理を受け付けております。サポート FAX を商品のシリアルナンバーと住所、氏名を記載の上、お送り下さい。BIOS ROM に問題が発生していなければ、¥2,000-+送料程度のご負担にて修理を行います。(BIOS 書き換えに自信がない方もご利用頂けます)

* シリアルナンバーはパラレルコネクタの上に添付されているシール上に(KK266Plus-R の場合)「KK266PR-----」といった形で記載されています。

Q.フロッピーディスクドライブのアクセスランプが点灯したままになり、Floppy Fail(40)と言うメッセージが表示される。

A.フロッピーディスクドライブのフラットケーブルが正常に挿しこまれていない場合、このエラーが良く出ます。ケーブルの接続をご確認下さい。

Q.システムの設定を間違えたため、BIOS が起動しなくなりました。

A. Cmos Clear をお試しください。電源を完全に落とし(可能なら、マザーボード上の ATX パワーコネクタをはずして行ってください)、JPI のジャンパーを 1-2 状態から 2-3 状態にショートして 10 秒から 20 秒放置してください。その後、ジャンパー位置を元の 1-2 に戻し、再度システムを起動してください。システム起動後 BIOS セットアッププログラムを起動し“LOAD SETUP DEFAULTS”を実行してください。これで完全に工場出荷時の設定を再現する事が出来ます。

Q.既存のシステムでマザーボードのみの交換を行ったが、動作が安定しない

A. OS を再インストールしてみてください。たとえチップセットが同じだとしても、マザーボードにはそれぞれ固有の設定が存在します。どのような場合であれ、マザーボードを交換した際には OS の再インストールをした方が良いでしょう。

Q.容量の同じ、異なるメーカー製のHDDでストライピングは可能ですか？

A. ストライピング・アレイを作成する事は出来ます。また、異なる容量のHDDでストライピングを行う事も出来ますが、アレイ自体の容量は容量の少ないHDDの2倍の容量となってしまいます。(合計容量にはなりません)

但し上記情報はアレイの作成にのみ「可能である」事を意味し、このようなイレギュラーな形での運用を保証する物ではありません。RAID(特にストライピング)は、同メーカー、型番のHDDで行ってください。

Q.ミラーリングを行えば、OSがクラッシュした時もバックアップHDDからOSを立ち上げる事は可能ですか？

A. 不可能です。OSがクラッシュした場合、ミラーリングによってバックアップを行ったHDD内のOSも同様にクラッシュします。ミラーリングはHDDのハードウェア的な障害に備える為の物であり、OSを含むSoftware的な障害に備える物ではありません。例えば、Over Clock等でレジストリが破壊された場合、レジストリの破損データもリアルタイムでミラーリングされたHDDに記憶されます。

Q.ストライピングを行っても、HDDの読み書きの速度が倍になりません。

A. 倍にはなりません。HDD及びその他のシステムの状態にも寄りますが、1.3~1.6倍程度の速度上昇になります。

Q.ストライピングを行ったHDDをM/Bに接続しなおすと、パーティションが正常に作成されず、OS等がInstall出来ない。

A. アレイを開放する際は、必ずRAIDの拡張BIOSからアレイを解除(Remove)してください。開放しない限り、そのHDDは単独で使用できなくなります。(場合によってはLow Level Format:物理フォーマットで使えるようになります)

2台でストライピングを行った場合、この2台同時にアレイを解除(Remove)しなければ、それぞれのHDDは単独で使用できなくなります。

Q.オーバークロックの設定がしたいのですが...

A. 弊社ではPCを「一種の道具」と考えています。道具を正しくメンテナンスし、正常に使用する事こそ最良の結果を得るための手段であると考えておりますので、お申し出の様な不適切な設定に関するサポート依頼はお受け致しかねます。たとえ、弊社商品が単独で過酷なオーバークロックに耐えられるとしても、PCはマザーボードのみ、CPUのみで動作するものではありません。CPUの動作クロックは各デバイスのデータ転送に密接に関わる重要な設定になります。マザーボード、CPU等のデバイスにおいてその設定が可能だとしても、一つのPCシステムとして必ずこの設定を生かしきれぬわけではありません。

Q.5.1チャンネルの音声出力が行えない

A. このサウンド機能はデフォルトで2チャンネル出力を行い、サウンド機能用の専用ユーティリティーで音声出力の切り替えを行います。(Line In端子をBack Speaker出力端子に変更する)5.1チャンネルの音声出力を行う場合はPowerInstaller CD-ROM内の以下のディレクトリにあるInstall.exeを実行して下さい。

アプリケーション保存ディレクトリ:¥DRIVERS¥CM18738¥W95-98¥app

Q.BIOS 書き換えの詳細な方法を知りたい。

A.以下の方法をご参照ください

- 1.PC のセッティングを全て規定クロック、規定電圧に設定する。
- 2.Windows の“マイコンピュータ”内の FDD のアイコンを右クリック。
- 3.“フォーマット(M)”を選択。Format Window の“通常のフォーマット”と“システムファイルのコピー”を選択して“開始”ボタンを押す。
- 4.ダウンロードした“BIOS 書き換えツール(Award の場合、AWDFLASH.EXE)”と“BIOS のイメージファイル(XXXXXXX.BIN と言うバイナリ形式で配布されます)”を先ほど Format した FD にコピーする。
注)イメージファイルは、自己解凍形式で供給されますので、必ず解凍してご使用下さい。
解凍後は「XXXXXXX.BIN (XX は BIOS Version 等)」という形式の File になります。
- 5.FD が完成したら、その FD を使って起動する。

5.5(重要)

弊社 M/B には“BIOS-ROM Flash Protect”機能が付加されており、Default でこの機能は Non-Flashable に設定されています。

BIOS 設定項目の CHIPSET FEATURES SETUP 内の BIOS-ROM Flash Protect を設定しなおしてください。

- 6.コマンドプロンプト画面(A:¥> という画面)になったら、書き換えツールの「ファイルネーム」を打ち込む。(A:¥>の後ろに以下の様にタイプする)

AWDFLASH.EXE /cc /cd /cp /tiny

スイッチの意味

/cc Clear Cmos Data

/cd Clear DMI Data

/cp Clear PnP Data

/Tiny 最小の Memory 消費量で実行

- 7.後は書き換えツールの指示に従って、書き換えを行ってください。書き換え後は念の為“Cmos Clear”を実行した方が良いでしょう。

- 7.1 補足 最初に打ち込む File Name は「新しく書き込む Data のファイルネーム」です。
もしも現在の BIOS をバックアップするのであれば、必ず「新しく書き込む Data のファイルネーム」とは異なるファイルネームを打ち込んでください。

- 8.書き換え後、BIOS Setup Menu で“Load BIOS Default”(もしくはそれに準じたコマンド)を実行し、その後各種設定を行ってください。

Appendix

A) Award BIOS Beep Code List

Beep 音	Beep パターン	エラー内容
音なし		電源供給不能/BIOS POST 部分もデータ破損
長音が鳴り続ける	— — — —	電源部の故障
単音繰り返し	メインボードの故障(M/B 上の配線不良)
長音x1	—	RAM-Refresh Failed
長 x1、短 x1	—.	BIOS のベース部分に異常あり/PCB CMOS 配線部の問題
長 x1、短 x2	—..	VGA Failed/ディップスイッチ(XT)設定ミス
長 x1、短 x3	—...	EGA/VGA ボードエラー
長 x2、短 x1	—..	画像シンクロニゼーションエラー
短 x2	..	パリティエラー
短 x3	...	BIOS 先頭の 64KB-RAM エラー
短 x4	タイマーの故障
短 x5	Processor エラー/VGA Memory エラー
短 x6	キーボードコントローラ エラー
短 x7	仮想プロセッサモード導入時のエラー
短 x8	ビデオ RAM の Write エラー
短 x9	ROM-BIOS エラー

B) PCI IRQ Assign

PCI #1 = AGP, PCI #5

PCI #2 = PCI #6

PCI #3 = Onboard Sound

PCI #4 = Onboard RAID, USB

BD133U に対し、多数の"IRQ の占有が前提となるデバイス"を取り付ける際には、できる限り IRQ の重複が発生しないように留意し、PCI Delay Transaction を Enable に設定する等の処置を行ってください。

C) Sound Output Pin Assign

ライムグリーン Line Out / Front Speaker Out

ブルー Rear Speaker Out

レッド Microphone In

サポート FAX には、下記項目を完記してください。

お名前

FAX 番号

電話番号

(あれば)E-Mail アドレス

商品型番

ご購入店舗

ご購入時期

シリアルナンバー

システム構成

CPU

クロック MHz (MHzで使用)

メモリ

(挿している Bank とメモリチップもご記入下さい)

ビデオカード

その他の PCI 拡張カード (挿している位置なども記載してください)

電源

(メーカーと型番をご記載下さい)

HDD (メーカー/型番)

CD-ROM

症状:

これで、動作に必要な各種設定項目に関する解説を終了致します。商品のご使用に際し、なにかご不明な点などがありましたら、下記サポート FAX にお問い合わせ下さい。

株式会社アイウィルジャパン 技術部サポートデスク

FAX 03-5651-7641 E-mail support@iwill-japan.co.jp

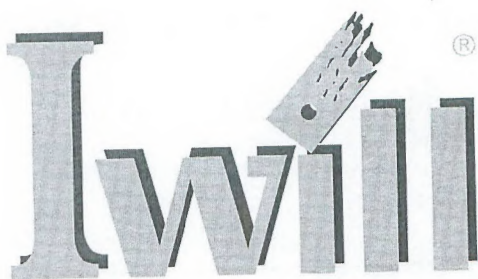
KK266Plus-R/KK266Plus 日本語マニュアル Ver.1.2

Iwill Japan Technical Team

Iwill and Iwill logo are trademarks of Iwill Corp.

AMD and AMD logo are trademarks of AMD Inc.

All other brand names and trademarks are the property of their respective owners.



MAKE THINGS HAPPEN

<http://www.iwill.net>